

第5章 健康課題と予防対策のための保健事業

1 分析結果から見てきた健康課題の把握

KDBをはじめとした医療費分析及び法定報告による特定健診・特定保健指導の経年的実績結果から、第1期計画における健康課題に対する実績について、若干の特定健診並びに保健指導の実施状況の改善がみられましたが、依然として国平均を上回る医療給付の状況に大きな変化（改善）は見られていません。

現状分析・健康課題	
全体的	<ul style="list-style-type: none"> 平均寿命及び健康寿命は、男女ともに国・県と比較して大きな差はない。 被保険者構成は、男女とも50歳代頃までは県・国の割合より低く、60歳代以上から県・国を大きく上回っている。 死因別比較において、がん、心臓病、脳血管疾患が上位を占めるが、心臓病及び特に糖尿病の割合が、県・国と比較しても1.5倍程度高い。
医療費	<ul style="list-style-type: none"> 受診率及び1件あたり点数については県・国とと比較しても高い。 一人あたり医療費は増加傾向にある。 生活習慣病関連の疾病が医療費合計に占める割合は21%を占めている。また、悪性新生物にかかる費用が1.5%増加している。 外来男性（医療費）では、0～30歳では「統合失調症」、「うつ病」、「高血圧症」、40～64歳は「慢性腎不全（透析あり）」、「糖尿病」、「統合失調症」、65～74歳では「糖尿病」、「高血圧症」、「慢性腎不全（透析あり）」が多い。 外来女性（医療費）では、0～30歳では「統合失調症」、「糖尿病」、40～64歳は「慢性腎不全（透析あり）」、「関節疾患」、「乳がん」、「糖尿病」、65～74歳では「糖尿病」、「高血圧症」、「脂質異常症」が多い。 入院男性（医療費）では、0～30歳では「統合失調症」、40～64歳は「統合失調症」、「脳梗塞」、「狭心症」、65～74歳では「脳梗塞」が多い傾向にある。 入院女性（医療費）では、40～64歳で「統合失調症」、65～74歳では「統合失調症」、「うつ病」が多い傾向にある。 うつ病や統合失調症は性別年代を問わず、国水準より高く推移している。 高血圧や糖尿病といった生活習慣病にかかる医療費は39歳以下で高い水準で推移している。 外来において、糖尿病や高血圧症、慢性腎不全（透析あり）といった生活習慣病のリスクが年齢とともに高まっている。 男女とも外来における糖尿病・高血圧症による医療費が国・県と比較しても高い。特に男性40歳代において高くなっている。 人工透析は60歳代が最も多く、理由別推移を見ると高血圧症に次いで、糖尿病の順に多くなっている。
健診	<ul style="list-style-type: none"> 平成28年度の特定健康診査受診率42.1%、特定保健指導利用率27.4%と目標値には達していない。 有所見者状況から、男女ともBMIが国・県と比較して高く、中性脂肪やHDLコレステロール、HbA1cなど、国比較で高い傾向がある。 <ul style="list-style-type: none"> 収縮期血圧、拡張期血圧においても、女性は国・県と比較しても高く男性も高い傾向にある。 有所見者状況から、男性はHbA1c(52.7%)、収縮期血圧(49.7%)、腹囲(49.6%)の順に高く、女性はLDL-コレステロール(57.2%)、収縮期血圧(51.9%)、HbA1c(50.7%)の順に高い。 質問票からは、男女とも「運動習慣のない人」及び「週3回以上の夕食後の間食をする人」が国・県と比べて多い。 特定健診受診者と未受診者の医療費点数の比較では、受診済み者より未受診の者の点数が高い。 19～39歳の働き盛りの健診においても、有所見者数が9割を占め、BMIや脂質異常、糖尿病やといった所見が見られており、初回受診者で要精密・要医療の者もいる。
介護	<ul style="list-style-type: none"> 1件あたりの介護給付費は各認定区分別において、国と同水準もしくは上回る傾向にある。 介護有病状況比較では、「高血圧症」や「心臓病」が多くなっている。

課題の整理と計画の方向性

- 働き盛りの世代を中心に、特定健康診査及び特定保健指導の受診率、健康意識の向上を図る必要があります。
 - ⇒
 - ・40歳早期からの継続的受診への誘導、健診未受診者及び保健指導未利用者への積極的介入
 - ・特定健診実施機関の拡充及び休日健診などの受診しやすい体制整備の検討
 - ・特定保健指導実施時期、方法に対する環境整備及び対象に合わせた保健指導の実施
 - ・特定健診年齢到達前からの早期介入と他保険者との連携
 - ・特定健診対象年齢前からの特定健診受診の効果について有意と感じる情報発信や幅広い啓発活動と早期介入

- 生活習慣病における発症リスク及び重症化リスクを保有する未治療者への、早期治療に向けたアプローチが必要です。
 - ⇒
 - ・心臓病及び脳血管疾患等を予防するための糖尿病、慢性腎臓病及び高血圧症をはじめとする生活習慣病改善のための発症及び重症化予防のための保健事業の実施
 - ・高血圧有病状況からの人工透析移行患者の抑制
 - ・運動習慣に対する行動変容のための取り組み
 - ・60歳からの医療費上昇を抑制するための保健事業の重点実施

- 早期から生活習慣病リスク因子を合わせ持っており、ライフステージに合わせた生活習慣病予防やがん予防、こころの健康等の啓発に取り組む必要があります。
 - ⇒
 - ・早期からの生活習慣病予防のための食生活及び運動の普及啓発
 - ・小児生活習慣病予防のための健診及び保健指導等の実施
 - ・がん予防に関する正しい知識の普及啓発及びがん検診受診勧奨の強化
 - ・ロコモティブシンドロームや認知症予防のための知識の普及啓発
 - ・関係部署と連携した、幅広い世代への効果的な取組の検討

- 医療費適正化のための多受診者及びジェネリック未利用者に対する適正化受診のための取組が必要です。
 - ⇒
 - ・積極的なジェネリック医薬品使用の促進対策
 - ・適正受診のための重複・頻回受診者訪問

2 保健事業の目的・目標の整理

分析結果から見えてきた健康課題に対し、以下の目的・目標を掲げ、保健事業を行っていきます。

目的 健康意識・知識を高め、健診受診及び早期治療など、自ら進んで健康増進に向けた行動変容を取り、健康寿命の延伸を図る。

目標 ■働き盛りの世代からの健診受診率及び保健指導実施率の向上

■早期発見・早期治療による重症化の予防

■生活習慣病予防事業による生活習慣の早期改善及び健康維持・向上

■医療費の適正化

3 保健事業の実施計画

第1期実績評価を踏まえての第2期目標の設定について、以下のとおり定めます。

保健事業名称	事業の目的	対象者	事業概要 (実施者・実施方法・実施時期)	事業計画		評価指標			
				短期 (2018)	中長期 (2019~)	ストラクチャー 評価	プロセス 評価	アウトプット 評価	アウトカム 評価
特定健診の受診率向上									
特定健康診 査	メタボリックシンドロームに着目した生活習慣病発症や重症化の予防	特定健診対象者（40～74歳の者）	市内医療機関又は健診施設において委託実施	継続 実施	継続 実施	受診機会の拡大（集団健診、ドック施設拡大等）	適正な実施（人員確保、予算、スケジュール） 適正な案内方法	特定健診受診率	特定健診受診率向上
特定健康診 査未受診者 対勧奨	特定健康診査の受診を促し、受診率の向上及び健診の定着化を図る	特定健診未受診者	外部委託等による受診勧奨通知又は電話勧奨 他で受診した場合の健診結果の情報提供の推進	継続 実施	前年度の 評価を踏 まえ検討	適切な委託業者の選定・連携	適正な実施（人員確保、予算、スケジュール） 適正な対象者の選定 受診勧奨通知及び電話勧奨等の発送時期や内容	受診勧奨通知及び電話の実施数 他健診受診者からの結果提供者数	勧奨事業完了時における健診受診率の向上

保健事業名称	事業の目的	対象者	事業概要 (実施者・実施方法・実施時期)	事業計画		評価指標			
				短期 (2018)	中長期 (2019~)	スタッフ 評価	プロセス 評価	アウトプット 評価	アウトカム 評価
特定保健指導の実施率向上									
特定保健指導	メタボリックシンドロームに着目した生活習慣病発症や重症化の予防を図る	特定健康診査受診者のうち特定保健指導に該当した者	市直営による集団及び個別指導健診施設における委託実施	継続実施	継続実施	適切な委託業者の選定・連携	適正な実施（人員確保、予算、スケジュール） 適正な保健指導内容	特定保健指導実施率の向上 特定保健指導終了率の向上	メタボリックシンドローム予備群・該当率の減少
特定保健指導利用者勧奨	特定保健指導の利用を促し、生活改善を図る	特定保健指導該当者	保健師訪問等による初回対象者への受診勧奨及び対象者への電話連絡	継続実施	前年度の評価を踏まえ検討	実施機会の拡大	適正な実施（人員確保、予算、スケジュール） 適正な利用勧奨の時期と内容 適正な対象者の選定	利用訪問勧奨者数 電話勧奨者数	特定保健指導実施率の向上
重症化予防の推進									
糖尿病重症化予防対策事業	特定健診有所見者に対して早期治療のための医療受診につなげる(KKDA)	特定健診受診者のうち、HbA1cが一定以上で医科レセの無い者及び治療中断者	対象者への受診勧奨通知及び未受診者への保健師訪問による受診勧奨 (国保連合会共同処理による健診結果からの対象者データ活用)	継続実施	前年度の評価を踏まえ検討	医師会・関係機関等との連携	適正な実施（人員確保、予算、スケジュール） 適正な通知内容 適正な対象者の選定 適正な保健指導内容	未受診者への受診勧奨者数 医療受診者数	適正な医療受診対象者の病態悪化防止
糖尿病予防教室	血糖等の値が基準値より高く糖尿病のリスクがある者に対して早い段階で生活習慣の見直しや重症化予防のための相談や予備群に対する改善教室を実施する	特定健診結果よりHbA1cが基準値より高い者及び予備群	医師及び保健師、栄養士等による集団教室の実施	継続実施	前年度の評価を踏まえ検討	医師会・関係機関等との連携	適正な実施（人員確保、予算、スケジュール） 適正な通知内容 適正な対象者の選定 適正な保健指導	参加者数 参加者の意識改善(アンケート)	健診結果の改善
慢性腎臓病(CKD)予防対策事業	特定健診有所見者に対して早期治療のために医療受診もしくは保健指導につなげる	保健指導対象者 受診勧奨対象者	保健師又は栄養士による保健指導 保健師又は栄養士による受診勧奨 (国保連合会共同処理による健診結果からの対象者データ活用)	継続実施	前年度の評価を踏まえ検討	医師会・関係機関等との連携	適正な実施（人員確保、予算、スケジュール） 適正な通知内容 適正な対象者の選定 適正な保健指導	参加者数 参加者の意識改善(アンケート)	健診結果の改善 人工透析移行患者の抑制

保健事業名称	事業の目的	対象者	事業概要 (実施者・実施方法・実施時期)	事業計画		評価指標			
				短期 (2018)	中長期 (2019~)	スタッフ 評価	プロセス 評価	アウトプット 評価	アウトカム 評価
高血圧症対策事業	血圧値が基準値より高く、高血圧症のリスクがある者に対して早い段階で減塩指導等の生活習慣を見直しするための健康相談や改善教室を実施する	特定健診結果より血圧値が基準値より高い者	医師及び保健師、栄養士等による集団教室の実施 個別健康相談の実施	新規実施	前年度の評価を踏まえ検討	医師会・関係機関等との連携	適正な実施（人員確保、予算、スケジュール） 適正な通知内容 適正な対象者の選定 適正な相談内容	参加者数 参加者の意識改善（アンケート）	健診結果の改善
運動教室	継続した運動習慣の獲得により生活習慣病の発症及び重症化を予防する	40～74歳の特定保健指導対象者又は有所見者	健康運動指導士による体操等の実技指導	継続実施	前年度の評価を踏まえ検討	適正な委託業者の選定・連携	適正な実施（人員確保、予算、スケジュール） 適正な対象者選定 適正な指導内容	参加者数 参加者の意識改善（アンケート）	健診結果の改善
生活習慣病予防対策事業の推進									
働き盛り世代の健康診査	働き盛り世代からの健康意識の向上と生活習慣病の発症予防を図る	19～39歳の者	休日における委託施設による集団検診の実施	継続実施	前年度の評価を踏まえ検討	適正な委託業者の選定・連携	適正な実施（人員確保、予算、スケジュール） 適正な対象者選定	健診受診者数	受診者数の増加 有所見者数の減少
医療費適正化の推進									
多受診者指導訪問	適正受診及び適正受診に伴う医療費の適正化のための指導及び啓発	重複・頻回受診者	保健師等による電話及び訪問指導の実施 (国保連合会共同処理帳票・国保連合会医療分析システムによる対象者抽出等を活用)	継続実施	前年度の評価を踏まえ検討	国保連合会との連携	適正な実施（人員確保、予算、スケジュール） 適正な対象者選定 適正な指導内容	対象者への指導率	指導対象者の受診適正化向上率
ジェネリック医薬品の利用促進	ジェネリック医薬品の普及向上を図ることによる将来的医療費の抑制	ジェネリック医薬品への切り替えによる薬剤費軽減額が一定以上の者	個別郵送通知 (国保連合会による共同処理データを利用)	継続実施	前年度の評価を踏まえ検討	国保連合会との連携	適正な実施（人員確保、予算、スケジュール） 適正な対象者選定 適正な指導内容	周知数	ジェネリック医薬品利用率の向上